

ヤマハニュース Yamaha News

2003 NO.477

JUN.

6



Passolキャラクター：奥村愛さん（バイオリニスト）とウサギ

Monthly Tops

2004YZ450F・250F・250・125・85LW・85/
TT-R125LWE/PW80・50/YFZ450 (ATV) ほか

MC FRONT LINE

“オフロードコンペ” でいこう!

ヤマハ探訪

エンジン開発室設計グループ

今月のCROSSOVER

日本ミシュランタイヤ(株)

バイクショップ百景

YSP寝屋川



○：今回の新しい特長 ●：従来の主な特長

(エンジン関連)

- 新設計クラッチコンポーネントフリクションロスを低減する新設計クラッチにより、発進時のクラッチ操作をスムーズ化。
- キャブレターセッティング変更でアイドルリンク性能を向上
- 449cm³・水冷4ストローク・5バルブDOHC・単気筒エンジン
- 鍛造ピストン、小型オートデコンプ、ワンピース型フライホイールマグネーターなどの採用で、慣性マスを低減し、2ストロークに近いレスポンスと軽快性を実現。
- チタン製バルブを採用したコンパクトなシリンダーヘッド。
- 幅広いパワーバンドを生かす4速トランスミッション。
- ポンピングロスを低減するオイル循環システム。
- 車体軽量化に貢献するチタン製エキゾーストパイプ

(車体関連)

- 剛性・作動性の高いフロントフォーク高剛性の大径48mmインナーチューブを採用。アウトターチューブは特殊な“カンマコーティング”処理によってフリクションロスを低減。さらに

新作アンダーブラケットは、締付け位置を見直し、フォーク剛性バランスの最適化を図っている。

- ブレーキフィーリングの向上
フロントブレーキマスターシリンダーに新作ダイヤフラムを採用。キャビティ発生を最小限に抑えることで、優れたブレーキフィーリングを実現する。
- 各部見直しによるコントロール性の向上
新形状チタン製フートレスト、ホールド性のよいフロステッド処理シート表皮、前後新設計タイヤ、軽量な新設計アクセルワイヤー、クラッチワイヤー取回し変更などにより、操縦安定性と各部操作性をさらにアップ。
- 各部軽量化による操縦安定性向上
- 剛性バランスに優れた超高張力鋼フレーム&軽量リアアーム
- 小型キャリアーと小径マスターシリンダー採用のリアブレーキ
- ライダー自由度の高いフラットな車体上面ライン



ディーパーブリッシュブルーソリッドE

ヤマハモトクロスサー
YZ450F
¥684,000
カラー：1タイプ
9月19日 新発売

初の日本製市販4ストロークモトクロスバイクYZ400F以来、ヤマハはつねにその技術を進化・熟成させ、着実なアドバンテージを獲得してきました。YZ450F・2004モデルは、定評ある449ccの4ストローク・5バルブDOHC・単気筒エンジンに新設計クラッチを採用し、フリクションロス低減による発進性向上を実現。さらに車体は、大径フロントフォーク採用によるサスペンション性能向上、フロントブレーキの制動感を高める新作マスターシリンダーやホールド性に優れた新作シート表皮採用、細部にわたる軽量化によって操縦安定性・操作性向上をはかり、いっそうの戦闘力アップを果たしています。

発進性・操縦安定性・操作性を向上
さらに進化した4ストロークモトクロス

YZ450F共通の車体新フィーチャーと250独自の進化でポテンシャルアップ

AMAや全日本などのトップカテゴリーでつねに優勝を争う「YZ250F」が、車体にYZ450Fと同等のスペックを織り込み、エンジンは中低速域性能をさらにアップ。より軽量で扱いやすくハイポテンシャルなマシンに進化しています。

(エンジン関連)

- シリンダーボディ&クランクケース形状変更
シリンダーボディのスカートエリア形状、クランクケース連結孔の形状を見直し、ポンピングロスを低減。中低速域の性能向上と軽量化を図っている。
- 軽量なチタン製エキゾーストパイプ&プロテクター、アルミ製オイルホース採用
- 定評ある4ストローク・水冷・5バルブ・DOHC・249cm³エンジン
- 鍛造ピストン、小型オートデコンプ、ワンピース型フライホイールマグネーターなどYZ450F同様の技術でポンピングロス低減と低重心化・マス集中化を達成。
- 3重カムチェーンテンショナー採用でフリクションロスを低減

(車体関連)

- 軽量ガセット採用によるフレーム軽量化&強度アップ
メインフレームのガセット部材質を変更し、軽量化と強度アップを実現。さらにフレーム左下部のボスを廃して強度バランスを最適化。
- YZ450F共通の新パーツ採用と仕様変更
●大径48mmインナーチューブを持つ新型フロントフォーク&ブラケット。
- 新作ダイヤフラム採用のフロントブレーキマスターシリンダー。
- 新形状チタン製フートレスト、フロステッド処理シート表皮、前後新設計タイヤなど
- 軽量で剛性バランスに優れたフレーム
- 小型キャリアー・小径マスターシリンダー採用のリアブレーキ
- ライダー自由度の高いフラットな車体上面ライン

(エンジン関連)

- YPVSの信頼性向上
主排気と副排気を独立制御するツューウェイコントロール式YPVSのバルブヘッドにスチール製キャップを追加し、信頼性を向上。
 - 249cm³・水冷2ストローク・ピストンリッドバルブ・単気筒エンジン
- (車体関連)
- YZ450F共通の新パーツ採用と仕様変更
●大径48mmインナーチューブの新型フロントフォーク&ブラケット。
 - 新作ダイヤフラム採用のフロントブレーキマスターシリンダー。
 - 新形状チタン製フートレスト、フロステッド処理シート表皮、前後新設計タイヤ。
 - 各部のさらなる軽量化
新設計クラッチワイヤーや小型グニッションコイル、アルミ製マフラスターの採用など、細部にわたる軽量化を積み重ね、操縦安定性の向上に貢献。
 - 高い剛性とスチールならではのしなやかさを持つ軽量フレーム

モトクロスシーンをリードする「YZ250」の2004モデルは、YZ450Fと同じ新型フロントフォークなどの採用、細部にわたる軽量化によって車体や足まわりを強化。優れたハンドリング性能に、いっそう磨きをかけています。

定評あるエンジンを生かす
車体・足まわり中心の進化



YZ250F
ディーパーブリッシュブルーソリッドE

ヤマハモトクロスサー
YZ250F
¥559,000
カラー：1タイプ
9月19日 新発売



YZ250
ディーパーブリッシュブルーソリッドE

ヤマハモトクロスサー
YZ250
¥604,000
カラー：1タイプ
7月22日 新発売

オフロードスポーツアイテムは“ヤマハ・ブルー”でキメよう!
2003「Team YAMAHA」

いよいよ夏目前!

強い日差しに負けない、緑と土と汗が大好きなオフロードライダーを、ヤマハブルーのアイテムがしっかりサポートします。



'03VFX-R YAMAHA ヘルメット
¥49,000

- 特長
- '03YZ・WR・TT-Rシリーズに合わせたニューグラフィック
- 包み込むような握り心地の「3DサポートインナーⅡ」内装
- 規格：JIS
- 構造：AIM (Advanced Integrated Matrix)
- サイズ：S・M・L・XL
- カラー・品番：
ブルー/ホワイト・QYC-YSK-016-■11
- ※■にはサイズ記号が入ります。
S=W, M=M, L=L, XL=X

TY881 スポーツタオル
¥2,000
カラー・品番：
レッド・90791-91390
ブルー・90791-91400

Monthly Tops
ACCESSORIES

セル装備と足まわり強化で生まれ変わった万能マシン

年齢や性別を問わず楽しめるTT-R125LWが、始動・再始動に便利なセルスターターを装備。さらにアルミ製



ディーパーブリッシュブルーソリッドE

(エンジン関連)

- セルスターター&MFバッテリーを装備
- 軽量・高剛性のアルミ製リアアーム採用
- リアサスペンションに減衰力調整機能を追加
- フロントサスペンションにイニシャル荷重調整機構を追加
- 2004ニューグラフィック採用
- 扱いやすさとパワーを両立した124cc・空冷4ストロークエンジン
- 高剛性フレーム、モノクロスサスなどYZゆずりの本格派ボディ

ヤマハファンバイク

TT-R125LWE

¥289,000

カラー:1タイプ

6月17日 新発売



ディーパーブリッシュブルーソリッドE

(エンジン関連)

- シリンダーボディ変更
 - 掃・排気ポートの形状最適化とポートタイミング変更により全回転域での排気効率を向上
 - キャブレターのバイパスポート変更
 - 混合気の流入速度差を最適化し、低中速域のレスポンスを向上
 - 排気管の仕様変更
 - エキゾーストパイプ長とサイレンサーパイプ径を変更し、低中速域の性能を向上
 - 124cc・水冷2ストローク・クランク室リードバルブ・単気筒エンジン
- (車体関連)
- さらに進化した、YZ250と共通仕様の車体
 - 各部のさらなる軽量化
 - 新設計クラッチファイヤーや小型イグニッションコイル、軽量シフトペダルの採用など、細部にわたる軽量化を積み重ね、操縦安定性の向上に貢献

ヤマハモトクロスサー

YZ125

¥509,000

カラー:1タイプ

7月22日 新発売

吸・排気系見直しと車体強化 各部軽量化でモデルチェンジ

トータルパフォーマンスに優れたベストセラーマシン「YZ125」が、吸・排気系の改良によるエンジン性能向上、YZ250同様に進化した車体と各部軽量化による操縦安定性・操作性向上をはかり、2004モデルとして新登場します。

定番・キッズモトクロスサーがニューグラフィックで新登場

初めてモーターサイクルの楽しさに触れ、ファンライディングを満喫する子供たちのための定番マシン「PW50」と「PW80」を、新しいブロックパターン・グラフィックでブラッシュアップしました。

- 2004ニューグラフィック
- 扱いやすい自動遠心クラッチ式オートマチックエンジン
- 本格派の前後サスペンション



PW50
ディーパーブリッシュブルーソリッドE

- 2004ニューグラフィック
- 最高出力3.5kWの79cm³・空冷2ストロークエンジン
- スポーツライクな3速ミッション
- モノクロス式リアサスペンション

ヤマハキッズバイク

PW50/PW80

¥109,000/¥159,000

カラー:1タイプ/1タイプ

6月30日 新発売



PW80
ディーパーブリッシュブルーソリッドE



YZ85LW
ディーパーブリッシュブルーソリッドE

本格的なモトクロス性能をコンパクトな車体に凝縮した「YZ85」「YZ85LW」が、2004ニューグラフィックで新登場。

- 2004ニューグラフィック採用
- YZ125ゆずりの84.7cm³・水冷2ストローク・クランク室リードバルブエンジン
- トラクションコントロール性に優れた車体設計
- YZ85LWは19/16インチタイヤとロングリアアームを装備

ヤマハモトクロスサー

YZ85/YZ85LW

¥309,000/¥319,000

カラー:1タイプ/1タイプ

7月15日 新発売



YZ85
ディーパーブリッシュブルーソリッドE



TY859 ビッグパラソル
¥3,000
カラー・品番:
ブルー・90791-90950
レッド・90791-90940



TY688
長袖Tシャツ(ストロボ)
¥3,300
サイズ:フリー
カラー・品番:
ホワイト/ブルー・90792-92400
ネイビー・90792-92420



TY872 バスケース
¥1,800
品番:90791-91130



TY883 ビットボード
¥18,000
品番:Q5K-PRT-002-211

取り扱い:株式会社ワイズギア
(TEL.053-443-2180)

※価格はすべてメーカー希望小売価格です。



楽しくやさしい「Passol」を 楽しい音色と詩的な映像で表現する TVコマーシャル放映中!

5月30日より全国販売を開始したヤマハ電動コミューター「Passol」。ヤマハでは、その発売タイミングに合わせて、テレビコマーシャル「静かなニュース」編を放映中です。

内容は、Passolの象徴的なターゲットユーザーである活動的な若い女性と、音に敏感でナイーブな感性を持つ「ウサギ」のさりげない出会いを、幻想的に描いたもの。登場する女性は、最近注目の若手バイオリニスト・奥村愛さんです。真つ白な、何もない空間にひとり座り込むウサギ。そこへPassolに乗った愛さんが静かに近づき、その気配に気づいたウサギは愛さん

を無言で見上げます。「ちょっと静かすぎるので楽しい音をつけました」

Passolからリズムミカルな「おしらせ音」が流れ出すと、ウサギは思わず気持ちがるくになり、何もなかったまわりの空間に草花が咲き、雲が浮かびはじめます。そよ風に吹かれながら、笑顔を見せ、再びPassolで走り出す愛さん……。「楽しいエコ、はじめました」



奥村 愛 / おくむら あい
4歳からバイオリンを弾きはじめる。'99年には日本音楽コンクールで第2位を獲得するなど、若くしてその才能を高く評価される。昨年、初のCD「愛のあいさつ」をリリースし、クラシックの新人としては異例の1万枚を超える販売を記録した。同時に、誰からも愛されるおらかなキャラクターと容姿でスター性も兼ね備え、今後さらに多彩な活躍が期待される。

■放映スケジュール(予定)
スポット:5月31日~6月15日
東京地区、名古屋地区、
大阪地区
番組提供:7月より開始(全国)
「きょうの出来事」・月曜日
「Are you Ready」



TVコマーシャルのほか、カタログや雑誌広告、新聞広告などもイメージ運動して、幅広い展開を予定

ぜひ店頭でも話題のひとつに取り上げて、幅広いお客さまにアピールください。

- 加速性能に優れた水冷DOHC・5バルブエンジン
パワーユニットは、信頼性に優れたメッキシリンダー、軽量チタン製バルブを採用するモトクロッサーYZ450Fベースの水冷DOHC5バルブエンジン。スロットルポジションセンサー付きFCRキャブレター、クロスレシオ5速ミッションを介し、シャープな加速性能と扱いやすい出力特性を引き出している。
- 高次元のハンドリングを引き出すサスペンション
サスペンションは、フロントがダブルウィッシュボーン式、リアが軽量アルミ鋳造リアアーム採用のリンク式モノクロスタイプ。各ショックユニットは、細かなセッティングが可能なイニシャル調整と伸圧減衰力調整機能付きで、安定した性能を引き出すピギーバックタイプのアルミ製サブタンクも備える。
- 操縦性アップに貢献する軽量設計
マグネシウム製カムカバー&クラッチカバー、高強度鋼管フレーム、CFアルミダイキャスト製サブフレーム、アルミキャストリアアーム、アルミ製前後ホイール&ハブなどの採用により超軽量ボディを実現している。

ヤマハATV
YZF450
¥938,000
カラー:1タイプ
9月1日 新発売



ディーパーブリッシュブルーソリッドE

- 粘り強いSOHC・5バルブエンジン
4ストローク660cc単気筒エンジンは、5バルブシステム、BSRキャブレターなどの効果によって強力な低回転トルクとシャープなスロットルレスポンスを実現。またエンジンブレーキ効果を生かす「ウルトラマチック」Vベルト式自動変速ミッションが、スムーズで扱いやすい運転感覚を生み出す。
- デフロック機能付きの3ポジション切替え駆動
4WD/2WD/デフロック4WDをワンタッチで切替える「オンコマンド」システムを採用。
- 四輪独立ダブルウィッシュボーンサスペンション
前後サスペンションは、路面追従性に優れた独立懸架式のダブルウィッシュボーンタイプ。275mmのグランドクリアランスと3タイプ駆動切替えの効果と合わせ、卓越した悪路走破性を発揮する。
- 利便性の高い装備
滑り止め加工キャリア、9項目表示のデジタルメーター、大容量20リットル燃料タンク、牽引フックなども装備し、ユーティリティ性を高めている。



バスターディーブグリーン

ヤマハATV
GRIZZLY660
¥798,000
カラー:1タイプ
9月1日 新発売

Monthly Tops NEW MODELS

4ストスポーツ&ユーティリティATVに 新しいフラッグシップモデルが新登場!

ヤマハは、超軽量ボディに高性能サスペンション、モトクロッサーYZ450Fをベースとする4ストロークエンジンを搭載し、スポーツ性能を徹底追求したビュアパフォーマンスATV「YZF450」を新開発。6

月5日に世界同時発表しました。

また、牧場などの野外作業に最適な大型ユーティリティモデル「グリーズリー660」も国内向けに新発売。これによって、ヤマハATVのラインナップはビュアパフォーマンスモデルの「ブラスター」、オールラウンドスポーツモデルの「YFM660R」「ウォーリア」「ブリーズ」「YFM80」と合わせ、全7モデルとなります。

ぷろっとレポート

Vol.3



モトクロスのみならずATVやスノーモビル、トーイングボートなど、オールヤマハ製品で“とびっきりの週末”を提言するヤマハブース。フリースタイルモトクロスデモに触発され「単純ですがモトクロスが欲しくなった」という来場者も



あくまでもバイクはファッションの一つであってバイクへの興味は一過性のもの
と言われがちな若者を中心としたカスタムバイクユーザー。彼らの動向は気になるものの、今ひとつつかみきれないななんて思っていたところに
“カスタマイズされたバイクのノンジャンルなショーイベント”と謳われた一枚のイベント案内が……。イマドキのバイカー像を垣間見るにはうってつけと5月10日・11日に東京の人気スポット・お台場で開催された第1回マルチプレックスにお邪魔しました。



第1回マルチプレックス

「バイクに関するハードとソフト、なんでも揃えたショーイベントにしたかった」とマルチプレックスの発起人、モトショップ五郎の吉澤博幸さん。
「居酒屋などでは趣味志向の違う者同士、酒を介して意気投合できる。でも二輪の場合、ジャンルやスタイルが違うと互いに相容れない部分があるように思うんです。バイクには色々な魅力があるし、人の数だけスタイルや距離感があり、遊び方なども人それぞれ。ライダーには自分と異なるスタイルを、ノンユーザーにはバイクの多面的な魅力を知ってもらう機会として、二輪業界に携わる方々にもジャンルを超えたバイクの素晴らしさを再認識し、これまでと違ったアプローチの仕方を考えてもらうきっかけになれば嬉しいですね」
増やせ、陸バイカー!?
マルチプレックスの根底には「自身が見て乗って実感してきたバイクのカッコイイ部分を多くの人に知って欲しい」という吉澤さんの想いがあります。
「実際に乗らないまでもバイクに憧れる、陸サーファーならぬ「陸バイカー」を増やしたい。バイクは振動や音、オイルの匂いなど、五感全てに訴えるものだから、生(イベント)で伝えることにこだわっています」
TWなど、カスタムバイクブームの火付け役として知られる吉澤さんですが、「バイクの楽しさは乗るのが一番」と14年前からイベント開催に力を入れ、積極的にバイクで遊ぶ機会作りに努めているのです。
「バイクはどんなものにも敵わない魅力やカッコよさがある。ただそれをツーリングやレース、イベントなどと言うカタチに加工するならば、多くの人に楽しんでもらえるエンターテイメント

「バイクに関するハードとソフト、なんでも揃えたショーイベントにしたかった」とマルチプレックスの発起人、モトショップ五郎の吉澤博幸さん。
「居酒屋などでは趣味志向の違う者同士、酒を介して意気投合できる。でも二輪の場合、ジャンルやスタイルが違うと互いに相容れない部分があるように思うんです。バイクには色々な魅力があるし、人の数だけスタイルや距離感があり、遊び方なども人それぞれ。ライダーには自分と異なるスタイルを、ノンユーザーにはバイクの多面的な魅力を知ってもらう機会として、二輪業界に携わる方々にもジャンルを超えたバイクの素晴らしさを再認識し、これまでと違ったアプローチの仕方を考えてもらうきっかけになれば嬉しいですね」
増やせ、陸バイカー!?
マルチプレックスの根底には「自身が見て乗って実感してきたバイクのカッコイイ部分を多くの人に知って欲しい」という吉澤さんの想いがあります。
「実際に乗らないまでもバイクに憧れる、陸サーファーならぬ「陸バイカー」を増やしたい。バイクは振動や音、オイルの匂いなど、五感全てに訴えるものだから、生(イベント)で伝えることにこだわっています」
TWなど、カスタムバイクブームの火付け役として知られる吉澤さんですが、「バイクの楽しさは乗るのが一番」と14年前からイベント開催に力を入れ、積極的にバイクで遊ぶ機会作りに努めているのです。
「バイクはどんなものにも敵わない魅力やカッコよさがある。ただそれをツーリングやレース、イベントなどと言うカタチに加工するならば、多くの人に楽しんでもらえるエンターテイメント



フリーマーケットや個人ユーザーご自慢の愛車が展示されたカスタムスペース、ペイントを行なうテントなどでにぎわう会場では、カップルや家族連れが思い思いに過ごしていた



イベント会場に人が集まらないと嘆く前に、お客さんがたくさんいるところで開催すればいいと発想を転換。今イベントのためにアスファルトコースなどを作ってまで、お台場という場所にこだわった



デモンstrレーション時の軽快なMCのトークに加え、バックで流れる音楽も場内を沸かせる演出のひとつ。ライダーのジャンプのタイミングに合わせて盛り上がる曲をDJがミックスする



モーターサイクルショーやレースなどの二輪イベントに一度も行ったことがない、という来場者が少なくない。口々に初めて生で見たプロの走りやテクニックの迫力に興奮したと言う

「入園料だけ払えば、好きな乗り物やアトラクションに好きなだけ参加できる遊園地と同じ感覚。いつ来て、何を見ても、どこにいてもいい。自分のペースで自由に楽しめる、あくまでも「お客さん都合」の視点です」
まずは自分が楽しむ。そして継続する
ユーザーが何を求めているかを知る前に、自分がバイクのどの部分にとことん惹かれているのかを把握していなければ、訴求ポイントが明確にならない、だから「まずは自分が率先して遊ぶ」と吉澤さんは言います。
「ライダーたちと同じ現場に身を置けば、彼らの喜ぶこと、欲することが自ずと見えてくる。最も端的にバイクの楽しさを伝えられるのはツーリングでしょう。ただ人間には飽きができますので、漫然と開催回数を重ねればいいのではなく、楽しませる意識が大切。今人気のフリースタイルモトクロスもインパクトはありますが、いつかは飽きられる。その時にどんな付加価値を加味できるかは自分だけが引き出しを持っているかにかかっています。その一方で、継続が力になる。ですからなんでもありのショーイベントとしてマルチプレックスも来年再来年とずっと続けたい。自分が面白いと感じるコトが変わればイベントの内容自体もそれに合わせて変化していくでしょうね」
「要素や演出が必要。その一つが過密なスケジュール構成だったり、デモンstrレーションにシンク口するような音楽なんです」
会場はエクストリームバイクショーにフリースタイルモトクロス、トライアルデモなど、様々なデモンstrレーションが15分刻みで途切れることなく、一日中行われていくという状況。



強制せず勝ち負けにこだわらず 楽しいモトクロスを広げたい

YSP 浜北大橋 / 太田徳次社長

静岡県浜北市にある「YSP 浜北大橋」さんは、知る人ぞ知るモトクロスの有名店。かつてヤマハの社員として長くYZの開発を担当し、15年前にこのお店を出した太田社長自身、大のモトクロス好き。現在もお客さまの15名ほどが店名をそのまま冠したチーム名で活動し、そのうち3〜4名が全日本選手権にエントリーしている。

YZなどオフロードコンペモデルの年間販売台数は4〜5台。しかし、店頭や店内にはTT-RやPWが2〜3台展示してあるだけで、オフロード色はほとんど感じられない。

「モトクロスはあくまで私の趣味で、それをお客さんに押し付けるつもりはない。むしろYSPという総合ショップとしていろいろなバイクの楽しさを提供したいと思うし、そのひとつがオフロードバイクでありモトクロスなんです。だから、チームのメンバーも特別扱いしません。サービス工場を貸してあ

げたり、トランスポーターを使わせてあげたりはしますが、店の中で大きな顔をしたり、ほかのお客さんとコミュニケーションしない人はこちらからお断りしています。イベントなどもそう。特にオフロード関係が多いわけではなく、あえて抑えているところもあります。だから、常連のお客さんでも、うちがモトクロスの得意な店だなんて知らない人は多いですよ」と太田社長。

YSPらしく幅広いヤマハモーターサイクルの世界を提供しながら、オフロード、モトクロスに興味を持つお客さまには奥が深い。そういうお店なのだ。

「私を知るかぎり、日本ではこれまでに2回、モトクロスのブームがありました。最初はD-TT-Rやミニトレが発売された70年代後半、2回目が80年代後半のいわゆる「エンデューロブーム」です。でも、熱しやすく冷めやすいのが日本人の悪い癖。一気にテンションが上がって、燃え尽きちゃう(笑)。いや、

“オフロードコンペ”で いこう!

ここ数年、TW200/225やマジスティ、SR400などをベースとするストリートカスタムの流行がスポーツバイク市場を活性化させてきた。しかしヤマハは、もうひとつ強力な武器を隠し持っている。4ストロークと2ストローク、85ccから450ccまで6機種がそろったYZシリーズに、TT-R125LWとPW50/80。ヤマハのオフロードコンペティションモデルは、優れた商品力と年齢・性別を問わず幅広いライダーに対応できる豊富なラインナップで着実に販売台数を伸ばしている魅力的な商品だ。

従来のモトクロスやエンデューロに加え、フリースタイルモトクロス、スーパーモタード、ダートトラックなど新しいイベントが遊びのバリエーションを広げつつあるオフロードスポーツの世界は、これからもっとおもしろく変わっていきそうな期待感がいっぱい。みなさんのお店でも、新たに、あるいはもう一度、“オフコンペ”してみませんか？





「観音山のコースは、一般オープンするまで、ヒミツの隠れ家なんです」と太田社長(左端)。この日は、オフロードビギナーのお客さま3人に初めてお披露目し、「こんなコースを走れるなんて!」と驚かせた



甘えん坊の健人くん(5歳)をなだめすかしてPW50に乗せる今村貴史さんは、「息子と一緒に過ごすこの時間が何よりうれしい」と目を輝かせる



もともと牧場だった土地を拓いて作った約1.4kmの観音山モトクロスコース。このほかにビギナー&キッズ用コースがある

まじめな話、草レースでさえいつの間にか勝負にこだわってみんな目がつり上がり、初心者でもできるレースがなくなってしまう。レベルが上がればマシンなどにお金がかかるし、それがどんどんエスカレートしていつ、誰もついていけなくなったらドスンと落ちる。で、それっきり。

した。勝つても負けても泥だらけの笑顔があり、親子のコミュニケーション、仲間とのクリエイションが深まっていく。そういうスポーツとしてのモトクロス、いくつになっても楽しめるモトクロスを応援したい。もちろん、一生を賭けて頂点をめざし続けるという考え方はあるし、そういう姿勢を貫く人たちがいなければレベルアップは望めない。う

さらに“勢いのあるヤマハ”をハードとソフト両面でサポート

ヤマハ発動機 プロダクト普及推進室 高橋 大輔

ここ数年、国内のモトクロスレースは、全日本選手権や地方選手権といったシリアスなカテゴリーでエントリー者数の減少が続いていますが、逆に観客動員数は増加傾向にあり、今年も全日本モトクロス開幕戦(近畿)が2万人、第2戦(関東)は1万7000人と昨年を上回っています。一方、試乗会やライディングスクールなどファンライド系の体験イベントの人氣も高まっており、オフロードスポーツの底辺拡大が期待できる状況になってきました。

そうしたなか、ナンバリングの市販オフロード車より排気量や車格が豊富で、お金をかけて改造しなくても十分な性能を持つオフロード・ミニベイクンモデルが、したいにファンライド層の需要を拡大。特にヤマハは、AMAスーパーバイククロスやモトクロス世界選手権、全日本選手権などのレース活動を通じて証明した商品力の高さを武器に、YZシリーズが国産モトクロスサイ全体の4割にあたる大きなシェアを獲得し、TTR125LWとPW50/80まで含めると、市場規模はさらに広がっています。

一方、ヤマハ発動機は今年4月から「プロダクト普及推進室」という新しい部署を中心にモータースポーツ普及活動を展開。商品開発や営業部門など関連部署との連携を強化し、ハード/ソフトの両面でモータースポーツの普及・拡大と、ヤマハコンベクションモデルの販売促進、シェア拡大をはかっています。

今年力を入れているのは、オフロードイベントの充実化。特にスクールを中心として年々参加者が増え、それによって求められる内容も広がってきたため、新しく「キッズ・オフロードスクール」と「チャレンジャー」という2つのイベントをヤマハ発動機販売と協力して企画しました。なかでも「チャレンジャー」は、荷重・抜重やアクセルコントロール、バランスの取り方を身に付け、トライル感覚の楽しいスクール。ぜひお客さまと一緒に参加してみてください。

また、全日本選手権の会場では、ヤマハ車に参加する全選手を対象とした「レーシングサービス」を設置。転倒などによりマシントラブルを抱えた選手に不足パーツを貸し出したり、セッティングやライディングのアドバイスを行なうほか、そこで収集したデータを商品開発部門にフィードバック。また、営業部門と連動して「クラブヤマハレーシングチーム」の運営にも関わり、有望選手の発掘・育成をサポート。さらに、観客に対しては「クラブヤマハ」で応援グッズの配付やライダートイクショーなどを行なう、いっそうのヤマハファン化・固定化に努めています。

そのほか、発表したのはかりの2004年モデルを体験できる「ヤマハオフロード体験試乗会」も、6月21日から各地で開催します。ふだん触れる機会が少ないコンベモデルの一番の販促活動は、まず乗ってもらうこと。店頭ポスターやDMを用意したりやインターネット・ホームページを通じて告知していますので、みなさんもぜひ積極的にお客さまをお誘い合わせのうえに参加ください。

ちのチームにも地方選や全日本を走る選手がいますが、ランキングポイントを追い、チャンピオンをめざすようになれば、私の役割はそこまで。本気で勝負欲を持った、ほかの有力チームを紹介してあげるんです」ともつと、楽しいモトクロスを広げたい。そんな太田社長の夢の舞台が、いまショップと別の形で大きく発展しようとしている。生まれ育った地元から観音山の土地を提供しようという提案があり、モトクロスやエンデューロ、トレッキング、ATVなどオフロードスポーツを総合的に楽しめるコースを建設

スクーターとYZスぺシャルストニ刀流めざすは未来のトップライダー育成!

セントラルMCS / 辻本幸二社長

大阪府堺市にある「セントラルMCS」さんは、地域密着型のスクーターショップとYZスぺシャルストのモトクロスショップという2つの顔を持つお店。'94年の東京、大阪スーパークロス125ccクラスを連覇した元ヤマハ契約ライダー・辻本社長が、「いずれファクトリーライダーを育てたい」という夢を託して'99年に設立した。

店舗は実家の喫茶店に隣接した2階建て。1階にスクーター中心のショップ機能を集約し、2階がモトクロス専用のワークショップとなっている。周辺には、昔ながらの集落と大阪市へ通う人たちのベッドタウンである新興住宅地・泉北ニュータウンが広がり、最寄りの梅・美木多駅や中百舌鳥駅までの移動手段としてスクーター需要が高い。その

中なのだ。一般オープンとは2年後の予定で、「全日本クラスの本格的なコースと、宿泊所、食堂、サービス工場、レンタル車両などを備えたモトクロスパラダイス。家族で遊びにやってくる、みんながそれぞれのレベルでモータースポーツに親しみ、飽きたら子供たちは山で虫取りや沢遊び、奥さんは山菜取りも楽しめる、そんな場所をイメージしています。地元と交流し、活気をもたらしすようなオフロードイベントやスクールなどにも使ってもらえればうれしいですね」

一方、5カ所のモトクロスコースへ1時間以内でアクセスする地の利に恵まれ、現在ヤマハファクトリーチームに所属する出原忍選手が昨シーズンまで在籍した、近畿圏で唯一のYZ専門ショップとしても広く知られている。

「モトクロスだけでは店の経営が難しいので、スクーターを店の基盤にしながらモトクロスの活動を軌道に乗せていこうと思ったんです。ただ、スクーターとモトクロスではお客さんの層がまったく違いますし、やるべき仕事も違う。それで、仕事を1階と2階にはっきり分けたんです」

いまはまだ、どちらが欠けても成り立たない大事な2本柱。しかし、いずれモトクロス一本で食べていけるようにしたいという

「オフロードコンペ」でいこう!

MC FRONT LINE

ヤマハ主催のオフロードイベント

■ヤマハオフロード体験試乗会

カラーページに掲載しているYZシリーズなど、ヤマハオフロード最新モデルをいち早く体験できる一般向け試乗会。今年からTT-R125LWE、PW50などのファンバイクも試乗車として準備。
日程・会場: 6月21日(土)・プラザ坂下(大阪)
6月28日(土)・MX408(茨城)
7月12日(土)・ヤマハスポーツランドダイイチ(三重)
定員: 各会場先着100名(予約)
参加費: ¥1,500(保険料として)

■ヤマハオフロードスクール

参加者のレベルが違って、お店やクラブ単位でまとまって参加しやすいよう、初級・中級・上級の各スクールを同日・同一会場で開催。
日程・会場: 6月22日(日)・プラザ坂下(大阪)
6月29日(日)・MX408(茨城)
7月13日(日)・ヤマハスポーツランドダイイチ(三重)
8月24日(日)・名阪スポーツランド(奈良)
9月14日(日)・天竜観音山特設コース(静岡)
11月30日(日)・香川スポーツランド(香川)

「ファーストステップオフロードスクール」

国際A級ライダー・吉原朋正さんによる初級オフロードスクール。オフロードライディングの基本からブレーキングやコーナーリング、ジャンプまで、独自のカリキュラムで楽しく指導。マシン、プロテクターのレンタルもあり。
参加資格: マニュアルミッションのバイクを運転できる方
参加費: 車両持込み ¥5,000
車両なし ¥10,000(マシンレンタル料含む)

「セカンドステップオフロードスクール」

元ヤマハファクトリーライダー・川崎智之さん、ヤマハレーシングチームの村岡康裕選手が指導する、中級者向けスクール。最新型モトクロス車のレンタル車(有料)もあり。

参加資格: オフロードライディング経験者

参加費: 車両持込み ¥5,000
車両なし ¥10,000(マシンレンタル料含む)

「モトクロステクニカルトレーニング」

“鉄人”光安鉄美さんが指導にあたる、レースでポイント獲得をめざす上級者のための実戦スクール。
参加資格: モトクロスでポイント獲得をめざす選手
参加費: 車両持込み ¥5,000

※参加費は保険料・税金・昼食代を含む。

※Club YAMAHA MOTORCYCLE会員は参加費割引あり。

■アップグレードオフロードプラクティス

カリキュラムにこだわらず、川崎智之さんとバイクで遊びながら実戦的なスキルアップをはかる。練習=苦しいというイメージが変わる、楽しいスクール。
日程・会場: 7月27日(日)・成田モトクロスパーク
11月16日(日)・名阪スポーツランド

参加資格: オフロードでのスキルアップをめざす方

参加費: ¥7,000

※参加費は保険料・税金・昼食代を含む。

※Club YAMAHA MOTORCYCLE会員は参加費割引あり。

■Kids オフロードスクール

ヤマハ主催のキッズ向け本格オフロードスクール。レース参加をめざす友だちと交流しながら、フォームやブレーキングなどオフロードライディングの基本を学ぶ。
日程・会場: 7月27日(日)・成田モトクロスパーク
11月16日(日)・名阪スポーツランド

参加資格: オフロードでのスキルアップをめざす方

参加費: 車両持込み ¥5,000

※保険料・税金・昼食代を含む。

※Club YAMAHA MOTORCYCLE会員は参加費割引あり。

■ちゃれこん!

バイクをもっと積極的に、自在に操ってみよう! それがチャレンジ・コントロール、略して“ちゃれこん”。トライアルのトップライダー・成田匠選手が、荷重コントロールやスロットルコントロールなどの基礎から指導する。

日程・会場: 9月13日(土)・天竜観音山特設コース
11月2日(日)・F2ファミリーフィールド小湊
11月29日(土)・香川スポーツランド

参加資格: マニュアルミッションのバイクを運転できる方

参加費: 車両持込み ¥5,000

車両なし ¥10,000(マシンレンタル料含む)

※保険料・税金・昼食代を含む。

※Club YAMAHA MOTORCYCLE会員は参加費割引あり。

■Club YAMAHA MOTORCYCLE OFF-ROAD CUP

キッズ、コミューターから市販オフロード車、モトクロスサーまでなんでもありの8クラスで競い合う、10分+1周のオフロードバトル!

日程・会場: 9月21日(日)・香川スポーツランド
10月5日(日)・スポーツランドふくおか
12月7日(日)・名阪スポーツランド

参加資格: 各クラス規定に準ずる

参加費: ¥2,000~¥5,000(各クラスによって異なる)

※保険料・税金・昼食代を含む。

※Club YAMAHA MOTORCYCLE会員は参加費割引あり。

【お申込み・お問合せ】

ヤマハオフロードスクール運営事務局
〒437-0065 静岡県袋井市堀越2-17-1
TEL 0538-45-0791 FAX 0538-45-0701
http://www.yamaha-motor.co.jp/motorsports/

辻本社長は、コンペモデルユーザーの拡大とトップカテゴリー選手育成に意欲的に取り組んでいる。

「うちのモトクロス活動は、全日本選手権にエントリーする『レーシングチームKOH-Z』と、地方選手権やエンデューロレースに参加しているお客さんを集めた『レーシングクラブKOH-Z』が母体になっています。これらに属さないお客さんももちろんたくさんいます。みんなレース志向が高いせいか一般のお客さんには敷居が高く見られがちで、YZの販売台数が年間13〜14台なのに比べてTTRやPWの販売は少ない。もっとファミリーや仲間どうしで気軽にモトクロスを楽しむお客さんを増やしたいなと思っています」

そこで、まず観るところから始めようと、クラブ員にアテンド役をお願いし、地元・近畿や中部、中国で開催される全日本選手権の観戦ツアーを年間3回ほど実施。さらに年に1度、近くの井岡山モトクロスランドでチームや仲間の国際A、B級ライダーを講師に招いてライディングスクールを開催したり、不定期で練習走行会やパーベキューパーティなども行なっている。

「今年からは、近畿選手権の会場で、レーシングサービスも始めました。不足パーツを

貸し出ししたりセッティングアドバイスをしたり、ほとんどボランティアみたいなのです。店に在庫のだけじゃ発展性がない。店の認知度アップや技術力のアピールにつながればと思っ続けています」

お父さんはYZ250F、お母さんはTTR125LWE、子供たちはPWやYZ80でオフロードに親しみ、そんななかから未来のヤマハファクトリーライダーが育っていく……夢の実現に向けて、辻本社長の情熱は尽きない。



ライディングからセッティング、専門的なメンテナンスまで豊富な経験と技術を持つ辻本社長(左)だが、チーム員やクラブ員のマシンには手を出さず、国際A級の坂下賢記選手(右)をはじめ全員が自分でマシンの整備を行なう



一見コントロールタワーのような外観の2階ショーウィンドーには、青いYZがざっしりと並んで、周囲にその存在感をアピールする



開店以来、毎年12月に行なう「レーシングチームKOH-Z ライディングスクール」は、定員40名がすくしばいになるほど定着。しだいにリピーターが増え、ショップの顧客化に貢献している

観る・体験する・参加する！ アクティブなオフロードファンを 応援するヤマハインターネット

ヤマハ発動機とヤマハ発動機販売は、インターネットでもモータースポーツに携わるそれぞれのセクションが連携。お客さまのレース観戦・スクール&イベント参加を誘い、話題性を高める多彩なコンテンツを提供しています。

■ YAMAHA MOTOR SPORTS FAN CLUB <http://www.ymsfc.com/>



ヤマハレーシングサービスも運営に協力し、ヤマハ車でロードレース、モトクロス、トライアルを楽しんでいるお客さまをサポートする情報ページ。モトクロス編では、レースや練習、マシンなどの疑問に答える「鈴木健二のQ&A」や「ファーストステップモトクロス」講座、ライダー

のための「フィットネス」講座、全日本選手権でのサポート体制を案内する「レーシングサービスインフォ」、観戦に役立つ「モトクロスコース案内」などを展開。

■ EVENT WORLD

<http://www.club-yamaha-motorcycle.com/event-world/>

ハンドブック「EVENT WORLD」と連動し、ヤマハが主催、協賛するさまざまなモータースポーツイベントの開催カレンダーから詳細情報まで各カテゴリごとに紹介。特にオフロード関連では、スクール参加やレース観戦に関する案内はもちろん、タカハシアヤヤのモトクロス挑戦日記「はじめよう！モトクロス」、モトクロス観戦を100倍楽しむミニ知識「MX観戦のススメ」など充実したコンテンツを用意している。



■ Club YAMAHA MOTORCYCLE RACING 2003

<http://www.club-yamaha-motorcycle.com/racing/>

ヤマハオフロードファンを代表してモトクロス全日本選手権、地方選手権に参加する「Club YAMAHA MOTORCYCLE RACING」チームに関する情報ページ。各クラスのサポート選手紹介からレースリザルト&コメント、今後のレース日程、フォトギャラリー&ムービーなどをタイムリーに掲載している。



■ Racing, THE YAMAHA Spirit

<http://www.yamaha-motor.co.jp/race/riders/>

おなじみヤマハホームページのレース情報サイト。主要レースのリザルトやレポート速報はもちろん、「ライダーズラウンジ」も充実。特に全日本モトクロス各選手の参戦記(釘村太一、波辺学、釘村忠、出原忍、村岡泰裕、鈴木健二監督)はレースごとに更新されるので、ぜひチェックしたい。



ヤマハ

ものづくりの現場から

探訪

企業理念に謳われる「感動創造」の言葉。ヤマハ発動機の製品はこの理念に基づき、「世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する」ことを目的に開発される。それはどのような部署の、どのような人たちの手を経て形になっていくのか。「ヤマハ探訪」第3回は、ヤマハ・モーターサイクルのエンジンを設計するエンジン開発室設計グループ。各モデルに1人ずつ配されるプロジェクトチーフを核に、設計担当者から製造担当者まで一団となった開発が行われている。

第3回

MC事業本部 技術統括部 エンジン開発室設計グループ

商品企画が中心となって定めたモデルコンセプトに合わせてエンジン性能の目標を決め、その達成を目指してエンジン開発を行う。内部は6つのSySに細分化されている。SySとは“System Supplier”の略。

アクセルをひねれば、バイクは前に進む。エンジンがあるからだ。言うまでもないことだが、エンジンがなければバイクは動かないのである。しかし、YZF-R6(03モデル)のエンジン設計を担当した高橋信治さんは、こう言う。「エンジンは、パーツの一部にすぎないんです」。

この言葉は少し分解する必要がある。バイクは、走らせてこそその乗り物であって、エンジンだけが突出しても意味がない。エンジン出力だけを高めることは技術的に可能だが、ヤマハはそれをよしとしない。エンジンは、ハンドリングの質を高めるためのパーツのひとつとして存在している——。これが高橋さんの「パーツの一部にすぎない」という言葉の意味だ。

その一方で、こうも言う。「それはもちろんエンジン設計者ですから、お客さまにエンジンのフィーリングをおほめいただけたら、何にも勝る喜びですよ。自分の担当するエンジンの質を高めていくこと。それはヤマハの場合、ハンドリングの質の向上として結実しなければならぬ。その一方でエンジ

ンは、それ単体でもライディングのエキサイトメントに直結する。

全体を構成する一部として、そして、単体としても。その両方で魅力あるエンジン作りが、エンジン設計者としての高橋さんの目標の一つだ。

コンペティションモデル、YZ450Fのエンジン設計者・杉浦義明さんも、高橋さんとまったく同じ思いを持っている。YZ450Fは2ストマシンをライバルとして、これに追いつき、追い越すために開発を進めている。4ストエンジンならではのメリットを生かしながら、2ストを凌駕する軽快感を出したい。

「4ストはトラクションがいいし、低回転域から高回転域までワイドな扱いやすさがある。その特性は伸ばしながら、さらに敏捷なモトクロッサーにしたいんです」と杉浦さん。

「ここでも鍵を握っているのはハンドリングだ。毎年のマイナーチェンジによって、エンジンそのものの性能や特性は進化を続けている。杉浦さん自身、「エンジン性能としては、かなりのところまで来ていると自負している」と言う。

けれど特に重視しているのは、やはりハンドリングなのだ。

「動弁系や潤滑方式などの違いから、4ストはどうしてもエンジン重量が重くなるんです。そこをいかに軽くして、シリンダーヘッド周りを低く、コンパクトにするか。それはすべて、理想的な操作性を実現するためのなんですよ」。

敏捷で、しなやかに走り回るマシン。その軽く小さな心臓が、新しい力強さを得ようとしている。

高橋さん、杉浦さんは、ともに各モデル毎に配されるエンジン設計のプロジェクトチーフである。ヤマハのエンジン開発は、動弁系、駆動系、クランクケース周りなどいくつかに分けられ、それぞれのユニットにエキスパートの設計者がいる。それを一つのエンジンとしてとりまとめるのが、プロジェクトチーフ(PC)の役割だ。

高橋さんは、「私はPCとして、各設計者の方に目標とするエンジン性能を伝えます。そして、それぞれの設計現場でさまざまな基準をクリアした図面が上がってきたら、それを確認します。

もっと軽量に
もっとコンパクトに
目標は2ストを凌駕する
4ストモトクロッサー



走りやフィーリングを 向上させながら 「夢」も感じさせる エンジンを作りたい

もつとも、初期の段階から各設計者の方たちが集まってもらって詳細な検討を行うので、上がってくる図面は最初からレベルが高いんですが」

ただし、その系統図は上からの命令に下が従う軍隊のような形式ではなく、数多くの楽器演奏者たちが音を重ね合わせていくオーケストラをイメージさせる。目標となるエンジン性能を達成するために、エキスパートたちが

最大の力を発揮していく。「設計がユニット毎に分かれているぶん、それぞれがよりプロフェッショナル化して、レベルが高まっていくんです。彼らはプロ中のプロなんですよ」と高橋さん。プロジェクトチーフは、エキスパート奏者のたちの方向を定める指揮者なのだ。

また、ある楽器のエキスパートは、別のオーケストラでもその技巧を存分に発揮できるものだ。ヤマハのエンジン開発においてもそれは

当てはまる。各箇所のエキスパート設計者は、単一モデルのエンジンに関わるだけではなく、さまざまなエンジンの同一箇所の設計を行う。だから例えば、YZ450Fの排気系で培われたチタニウム技術がR6のマフラーに息づく、といったモデル間のテクノロジの活用は、頻繁に行われることになる。

さらにオーケストラ団員は設計者にとどまらない。製造部署をはじめ、モデル開発に関わる部署すべてが一団となって目標性能を実現しようとする。高橋さんがエンジン設計のプロジェク

発したテクノロジである。部署間の垣根をなるべく取り払い、風通しを良くしているから、こういう事例は枚挙にいとまがない。

プロジェクトチーフ同士のやりとりも密だ。「YZのエンジンのカットモデルをよく眺めるんですよ」と高橋さん。「R6も、ある意味かなり突き詰めたエンジンですからね。コンペティションモデルならではの徹底した軽量コンパクト思想は、私にもとても参考になるんです」と言う。杉浦さんは、「私は高橋さんから動弁系に関するアドバイスをもらったんですよ」。

どの部署からの提案も、どのモデルで培われたテクノロジでも、それが良い成果に結びついたら受け入れる。そういう極めて有機的で柔軟な組織体から、ヤマハのエンジンは生まれているのだ。

「現在のようシステムになった2001年以来、開発スピードは格段に向上し、より短期間でより高品質なもの作りが可能になりました。また、設計段階から一貫してコストに配慮できるので、コストダウンも達成しています。より良い物を、より安くご提供できるようになっていると思います」と高橋さんは言う。そしてこれは、エンジン開発に限った話ではない。ヤマハの製品開発の多くの現場に、そのまま当てはまる話でもあるのだ。

エキスパートたちが、指揮者の振る指揮棒を注視しながら、自分たちの出comingの最良の音を奏でる。そんな演奏が積み重ねられることで、オーケストラの織りなす音楽——つまり製品の完成度は日々向上していくのである。



高橋信治 主事

1990年入社。GTS1000、SRV250、DS650、初代YZF-R1、FJR1300などの4ストエンジン設計を担当



杉浦義明 主事

1982年入社。4スト並列4気筒エンジンのクランクケース設計などを経て、86年からMS開発室に。バリダカマシンやTZ125などの設計に携わり、96年からYZシリーズを担当



プロジェクトチーフが「プロ中のプロ」と呼ぶ各ブロックのエキスパート設計者たちが、それぞれの力を発揮しながら、ひとつのエンジンを作り上げていく。技術的なレベルが高まることはもちろん、開発スピードの向上やコストダウンなど、多くのメリットが得られる開発スタイルだ



サービス工場は「床排気システム」「二輪検査ライン+エンジンパワーテスター」といった最新設備を充実させた

4月30日、春日部にヤマハの新しいサービスセンターがオープン。これにより、SC北関東(春日部)とSC西関東(厚木)の2つの拠点を統合する形でSC関東が発足しました。新社屋は、SC関東の事務所、サービス工場を一新したほか、サービス工場とは別に、「ヤマハ二輪車整備士資格講習会」開催などに対応できるサービススペースと、座学講習スペースを追加し、東日本エリアの研修センター機能も拡充しました。みなさまには、講習会などにご参加いただくだけでなく、自店のサービス工場と比較し今後の参考としてご活用ください。これと同時に、東日本エリア(春日部)と西日本エリア(寝屋川)で別れていた「整備相談センター」も1つの組織に統合。全国からの情報を春日部に集約することで、販売店のみならず、幅広いサービス情報をいっそう充実させる体制が整いました。日常の業務にぜひお役立てください。

春日部に新サービスセンターがオープン！ 充実した設備と全国均質のサービス情報を提供

ヤマハのGロックスクーターが 9月までオール盗難保険付き！

ヤマハでは、7月1日から夏の「Gロックスクーター盗難保険キャンペーン」を開始します。

内容はこれまでと同様、Gロックを装備するスクーター全モデルを対象に無料で1年間の盗難保険をプレゼントするというもの。

トリプルロック・プラスワンの安心をトータルラインナップでお届けするヤマハスクーターとして、ぜひお客さまにご案内ください。



ハンドルPOP、ステッカーなどのキャンペーンツールも用意。ぜひ効果的にご活用ください

アートと融合したマジェスティ！ カスタムとは違う新スタイルを披露

4月26日から5月13日、東京・原宿のエクセルムにて、国内外で活躍するアーティストがデザインしたマジェスティを展示する「FINAL MODIFICATION 002」を開催しました。

これは、ヤマハプロダクトに作家の感性を吹き込み、今までにないデザインをエクセルムから発信してその価値を高めようという試み。昨年マリンジェットに続き、全国で絶大な人気を誇るマジェスティがキャンパスとなりました。

マジェスティそのもののデザインに惹かれた3人のアーティストが集い、各自の持つ未来感を作品に反映。カスタムとは違い、ペイントのみで仕上げられた作品はそれぞれが個性的で、来場者から羨望の眼差しを受けていました。

またこの作品は、東京・新宿にある人気アパレルショップ「UNITED ARROWS(ユナイテッドアローズ)」でも展示され、大きな反響を呼んでいました。



今回のマジェスティは、エキシビジョン終了後、購入希望者を募り抽選でそれぞれ1名様に120万円で購入される。既に数名が名乗りを上げている

異国の地を走る感動をあなたにも！ ヤマハバイクで行く8日間・900km

ヤマハ発動機の協力のもと、毎日新聞旅行の主催で行なわれる「毎日海外バイクツーリング」が今年も開催されます。14回目を迎える今回はインド洋に浮かぶ島国、スリランカを舞台に7月5日～12日の8日間、約900kmを駆け抜ける旅です。

山岳のワインディング走行、仏教文化が育んだ遺跡や寺院などの世界遺産、美しい海を望める海岸線など、変化に富んだコース設定が魅力。スリランカでしか味わえない貴重な体感をヤマハバイクがサポートします。

ツーリングを楽しみたい人、海外を堪能したい人、初心者からベテランまで自動二輪免許取得者、そしてバイクに乗らない方でも気軽に参加できます。お客さまの貴重なバイクライフの1ページを飾るツアーを、ぜひ多くの方にご紹介ください。



写真は2000年に行なわれたインドツーリングの様。現地ライダーも参加し彼等との触れ合いもまた大きな魅力のひとつ

お問合せ：毎日新聞旅行
TEL：03-3212-1831
ホームページ：http://www.maitabi.jp

「YTAヤマハテクニカルアカデミー」確かな知識と技術力でCSアップ！

ヤマハ二輪車整備士講習会日程(6、7月)

会場	6月			7月		
	ブロンズ	シルバー	パス	ブロンズ	シルバー	パス
東北サービス				8~10		
SC関東	10~12	17~19				16
SC中部	10~12	25~27				9・16・22
SC近畿	10~12					
中国サービス		10~12			15~17	
九州サービス	3~5			2~4		

ブロンズ：ヤマハスクーターエンジンのオーバーホール整備とそれに準ずる測定器の習得
シルバー：ヤマハ4サイクル4気筒エンジンのオーバーホール整備と基本的トラブルシューティングの習得
パス：パスに関する一般整備知識の習得

リコール&サービスキャンペーンのお知らせ

下記リコール、改善対策、サービスキャンペーン車両の改修・修理を行っております。大変ご迷惑をおかけしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。詳しくは、ヤマハホームページ(http://www.yamaha-motor.co.jp/news/recall.html)などでお確かめください。

商品名	交換部品	車体番号
【リコール対象車】		
●リモコンJOG・JOG・JOG-ZR(CV50)	スピードセンサー	SA16J-000054~030338 SA16J-030400~030699 UA03J-000013~006302 SA02J-100101~104489 SB01J-100101~103519 SB01J-126437~138056 SB06J-200101~214122 SB01J-100101~138056 SE01J-000101~005648 SE07J-000106~000590 4TG-000101~008778
●ギア(BA50)	マフラー	
●ビーウィス(YW50)	F.マスターシリンダー	
●グランドアクシス(YA100)	F.マスターシリンダー フラッシュャーリレー	
●シグナス(XC125M)	ヘッドライトソケット	
●シグナス(XC125SV)	ヘッドライトソケット	
●シグナス(XC125D)	制動灯用スイッチ	
●マジェスティ(YP250A)	ヘッドライトソケット ハイドロリックユニット、R.マスターシリンダー	SG01J-003245~006687 SG03J-026479~028473 SG03J-000027~015548 SG03J-023359~028533 SG01J-000015~006707 4HC-061237~070060
●マジェスティ(YP250S)	フラッシュャーリレー、電気配線 ハンドルスイッチ、サブリード線 フラッシュャーリレー、電気配線	
●マジェスティ(YP250)	ハンドルスイッチ、サブリード線 ハンドルスイッチ、サブリード線	

商品名	交換部品	車体番号
●TW225E	CDIユニット	DG09J-000019~003196
●ドラッグスター(XVS250)	整流器 燃料コック	VG02J-000020~004993 VG02J-02672~02751
●ドラッグスター(XVS1100)	整流器	VP10J-000019~003178
●ドラッグスタークラシック(XVS1100A)	整流器	VP13J-000013~002707
●ロードスター(XV1600)	マフラーステー	VP12J-000008~000967
【改善対策対象車】		
●シグナス(XC125SV)	ブラケット	SE07J-000101~001560
●メイト(V50)	ハンドル	UA04J-000016~020905
【サービスキャンペーン対象車】		
●JOGポシェ(YV50H)	気化器の点検	SA08J-028523~036627
●JOGアプロ(YJ50)	気化器の点検	SA11J-065039~088782
●ビーノ(YJ50R)	気化器の点検	SA10J-044334~065863
●グランドアクシス(YA100W)	強制空冷用ファン	SB06J-206603~214916
●マジェスティ(YP250)	コンデンサー、電気配線	SG03J-23359~044657
●マジェスティ(YP250A)	コンデンサー、電気配線	SG03J-026479~043581
●マジェスティ(YP250C)	コンデンサー、電気配線	SG03J-028714~044777



全16戦で争われるナショナルモトクロスでは、カーマイケルへのリベンジが期待される

5月3日、AMAスーパークロス最終・第16戦が、ラスベガスのサムボイド・スタジアムで開催。11戦から5連勝を飾り、首位のR・カーマイケルとの差を10ポイントまで縮めたC・リードは、シリーズチャンピオン獲得をかけてレースに臨みました。

そのレースでホールショットを奪ったのはリード。5連勝の勢いそのままにトップを快走し2位以下をぐんぐんと引き離して独走体制を築くと、そのまま首位を一度も明け渡すことなくフィニッシュ。リードは第11戦以来6連勝となる優勝を果たしました。しかし2位にカーマイケルが入ったことで、チャンピオンにはあと一歩届かず、惜しくも7ポイント差でランキング2位となりました。

それでも250ccクラス初参戦で6連勝を含む全8勝・360ポイントは見事。5月11日から始まったAMAナショナルモトクロスでは、第1戦・第2戦ともに2位を獲得しており、今後の活躍が楽しみです。



C・リード6連勝も届かず！シリーズランキング2位で終了

YZF-R1 & 中富伸一が好調 2戦目で3位表彰台を獲得！

全日本選手権シリーズ第3戦・筑波大会が5月10、11日に開催。YSP&プレストレーシングの中富伸一は鈴鹿2&4での悔しい判定(失格)をバネに、予選から高い集中力を発揮して3位に入り、再びフロントローを奪いました。

そして決勝、序盤はゼッケン1をつける渡辺がレースを引っ張り、北川、井筒、中富、やや遅れて山口というトップグループでレースが進みます。しかし10周目以降のトップ争いは常に周回遅れを抜きながらの展開となり、転倒者が多く、駆け引きの難しいレースとなりました。そんななか、15周目、中富は山口に抜かれ5位に順位を落としますが、22周目山口のリタイヤで4位に上がると、24周目にはベースの落ちてきた渡辺を抜き3位に浮上。そのまま3位でゴールし、2戦目で今季初の表彰台を獲得しました。

常に上位をめざす「YSP&プレストレーシング」に熱い応援よろしくお願いします。



「チーム監督」YSP杉並南/早瀬太嘉志さん
「この目で国内頂点レースを走るYZF-R1のポテンシャルを確認できたのは、生の情報をお客さんにフィードバックできるという意味で良い経験となりました。また、会場に出されたYSPブースとの連携をもっと密にして販売店の要望を反映させるとか、レース観戦ツーリングを企画するなど、チームをスポンサーしていることへの意識を高め、自分たちのためにレースを積極的に活用すべきであると感じました。今後はレースを通じて感じたことを実行していきたいと思います」

「第4回ヤマハチャレンジ展」開催 「YZR500」30年の軌跡を辿る！

ヤマハでは、第4回チャレンジ展「WGP500 最高峰への挑戦 YZR500 30年の進化」を、6月28日～11月22日まで、ヤマハコミュニケーションプラザにて開催します。今回はヤマハ発動機の掲げるチャレンジスピリットの醸成過程で大きな役割を果たしたレース活動を取り上げ、なかでも1973年から2002年までの30年間、世界最高峰の舞台で2ストロークマシンの可能性を追い続けたファクトリーレーサー「YZR500」の歩みをまとめました。



1985、86年に走ったYZR500(コードネームOW81)。86年にはエディー・ローソンを2年ぶり2度目のチャンピオンシップに導いた

会場には、数々のチャンピオンマシンをはじめ、1996年阿部典史の日本グランプリ初優勝マシンなど16台と、ホンダのライバルマシン2台を展示。また、併催イベントとしてGPフォトグラファー木引繁雄氏の「GP写真展」(7月26日まで)なども開催します。ぜひ多くのお客さまを誘って、YZR500の築いた栄光と挑戦の歴史をご堪能ください。

【開催概要】

会場：ヤマハコミュニケーションプラザ
静岡県磐田市新貝2500(ヤマハ本社内)
開催日：2003年6月28日～11月22日
一般公開日：各第2、第4土曜日の10時～17時
入場料：無料

125cc出原が各ヒート2位/1位で総合優勝！ 250ccは各ヒート大河原が1位、小池田が2位を獲得！

全日本モトクロス選手権・第3戦中国大会が5月11日、広島県のグリーンパーク弘楽園にて開催。各決勝レースは、前日からの雨によりマディコンディションのなか行なわれ、上位陣が目まぐるしく入れ代わるサバイバルレースとなりました。

125ccクラスは、ヒート1で2位となった出原忍がヒート2でそのうぶんをはらすかのような走りを見せます。スタートを2位で決めると、3位以下を引き離しトップの溝口哲也とマッチレースを展開。そして10周目、溝口がわだちにはまった隙を見逃さず前に出ると、あとは安定した走りでもファーストチェッカー。1戦、2戦と転倒に泣いた出原が今季初優勝を飾り、ランキングも2位に浮上しました。



「1戦、2戦と転倒し、いつ優勝できるのかと思っていたので“やっと勝てた”という感じ。次も優勝を狙って走ります」と気合い十分の出原

250ccクラスでは、ヤマハのトップライダー2人が大活躍。ヒート1では、ここまでノーポイントの大河原功次が、上位が次々と入れ代わるなか、安定した走りを見せ今季初ポイントを優勝で飾ります。続くヒート2では小池田猛が4周目以降トップを快走し、2位以下を大きく突き放します。しかし残り2周のところで小池田がスタック。後方を走っていた成田にトップを奪われてしまいました。アドバンテージが大きかったことで2位を確保。今大会はヤマハの2スト、4ストマシンがそのポテンシャルの高さを見せつけた大会となりました。



第2戦の怪我を押して出場した大河原。「1ポイントでもいいから取りたいという気持ちで臨んだ。この勝利は、走れる状態までしてくれたトレーナーと、チームおかげです」

2003シリーズランキング

AMA SX 250 (最終戦終了時)	
1 R・カーマイケル Honda	323
2 C・リード Yamaha	310
3 E・フロンセカ Honda	185
4 D・ペーラン Yamaha	169
5 N・ウエイ Yamaha	169
6 T・フェリー Yamaha	163

AMA SX 125西 (最終戦終了時)	
1 J・スチュワート Jr Kawasaki	172
2 T・プレストン Honda	139
3 M・ウォーカー Kawasaki	110
4 A・ショート Suzuki	110
5 B・ラニノビッチ KTM	101
6 E・ソルビー Kawasaki	81

AMA SX 125東 (最終戦終了時)	
1 B・ジェスマン Suzuki	150
2 M・ブラウン Kawasaki	143
3 B・セラーズ Yamaha	120

AMA NX 250 (第3戦終了時)	
1 R・カーマイケル Honda	147
2 C・リード Yamaha	120
3 T・フェリー Yamaha	114
4 K・ウイングダム Honda	113
5 M・ラロッコ Honda	90
6 E・ラスク Kawasaki	78

AMA NX 125 (第3戦終了時)	
1 M・フランケン Kawasaki	136
2 R・ヒューズ KTM	135
3 E・ソルビー Kawasaki	116
4 G・ラングストン KTM	112
5 I・タデスコ Yamaha	72
6 B・メットカルフェ KTM	71

WMX MXGP (第3戦終了時)	
1 M・ビション Suzuki	75
2 J・スメッツ KTM	64
3 S・エバーツ Yamaha	50
4 K・グンダーセン Kawasaki	48
5 B・ヨルゲンセン Honda	47
6 G・クロカード Honda	40

WMX 125MX (第3戦終了時)	
1 M・ド・ルバー KTM	60
2 S・ラモン KTM	59
3 A・バルトリニ Yamaha	55
4 M・マスキオ Kawasaki	47
5 A・キオディ Yamaha	39
6 T・ラットレイ KTM	39

WMX 650MX (第3戦終了時)	
1 J・スメッツ KTM	75
2 J・ガルチャヴィコ KTM	66
3 C・メロット Honda	59

D・テイベル HUSABERG 37	
5 M・イーストウッド Honda	34
6 S・ブロックハート Honda	29

MotoGP (第4戦終了時)	
1 V・ロッシ Honda	90
2 M・ピアッジ Honda	67
3 S・ジベルナウ Honda	63
4 A・バロス Yamaha	46
5 T・ベリリス Ducati	40
6 宇川徹 Honda	32

WGP250 (第4戦終了時)	
1 M・ボジャーリ Aprilia	63
2 T・エアリス Aprilia	56
3 R・ド・ビュニエ Aprilia	58
4 R・ロルフオ Honda	56
5 A・ニエト Aprilia	41
6 S・ポルト Honda	36

WSS (第4戦終了時)	
1 C・バーミュレン Honda	81
2 藤原克昭 Suzuki	52
3 ヲフアン・グレルバグ Yamaha	51
4 C・ケルナー Yamaha	46
5 S・ジャンボン Suzuki	42

JSB1000 (鈴鹿200km終了時)	
1 北川圭一 Suzuki	57
2 井筒仁康 Honda	45
3 渡辺篤 Suzuki	44
4 辻村猛 Honda	41
5 山口辰也 Honda	26
6 江口馨 Honda	26

JRR GP250 (鈴鹿200km終了時)	
1 龜谷長純 Honda	33
2 嘉瀬博久 Yamaha	32
3 青山博一 Honda	24
4 徳留真紀 Yamaha	24

高橋裕紀 Yamaha 20	
6 及川誠人 Yamaha	18

JMX250 (第3戦終了時)	
1 成田亮 Suzuki	145
2 田中教世 Kawasaki	96
3 加賀真一 Suzuki	92
4 勝谷武史 Honda	91
5 田島久誌 Suzuki	90
6 小池田猛 Yamaha	86

JMX125 (第3戦終了時)	
1 溝口哲也 Kawasaki	125
2 出原忍 Yamaha	118
3 芹沢直樹 Honda	103
4 辻健二郎 Honda	91
5 北原良樹 Suzuki	83
6 中村友則 Kawasaki	76
7 A・バロス Yamaha	30
8 宇川徹 Honda	23

ごちんまりとしたコンビニ

1軒のコンビニエンスストアがある。見慣れたサンクスの看板が掲げられているが、「ごちんまり」としている。実際、店内も決して広くはない。普通のコンビニよりも陳列棚が高めで見通しがきかないから、余計にそう感じるのかも。しれない。その分、商品のぎっしり感が高く、何かが見つけられそうな期待感がある。

雑誌コーナーの品揃えは男性誌がほとんど。女性誌は入り口側にわずかに数冊を数える程度だ。ドリンク売り場で目立っているのは栄養ドリンク。総菜コーナーを見渡すと、カレイや金目鯛の煮付け、イカのぼっかけ焼き、刺身の3点盛りなど、まるでスーパーマーケットの総菜売り場のようなバラエティに富んでいる。

通常のコンビニに見慣れた目には、奇異に感じることもばかり。しかし、このコンビニが倉庫街に位置し、店に入ってくる客のほとんどが作業服を着た男性となれば、すべてが頷ける。

コンビニはフランチャイズ展開が普通。出店場所はもちろん、店舗内の陳列方法、品揃えなどは、基本的にチェーン本部の意向に添うことになる。良かれ悪しかれ、「どこでも同じような店舗で、同じようなサービス」を受けられる仕組みだ。

ところが倉庫街にあるごちんまりとしたサンクスは、標準規格からは明らかにみ出している。しかし地域色や客層からしてみれば、実に的確にニーズを捉えているのだ。

他業界に探る E裏 H台 T舞 成功のヒミツ

流通業界の寵児と呼ばれて久しいコンビニ業界だが、ここへきて不採算店の閉鎖が相次いでいる。個人消費の冷え込みの他に、500メートルと言われるコンビニ二商圏が飽和状態となりつつあるのが大きな要因だ。そんな中、コンビニ大手・サンクスと企業フランチャイズ契約を結ぶCVSベイエリアは、東京・千葉の激戦区において着実に業績と店舗数を伸ばしている。

商売はなんでも やってみるべき

CVSベイエリアは、コンビニ大手のサンクスと企業フランチャイズ契約を結び、東京・千葉で全104店を展開。倉庫街のサンクスも同社が運営している。「同店舗はかなり極端に店舗展開を振った数少ない事例」と同社広報担当者。同社の他店舗でもこれほど独自性を打ち出すことはあまりないが、それでも地域性に合った店舗展開を心がけていることに違いはない。

CVSベイエリア



「街のおかあさん」は、炊事、洗濯など母親の果たしていた機能をコンビニによって実現しようというもの。日常生活に密着した「暮らしに役立つ」サービスを展開することで、「毎日の来店」を狙う。同社では、クリーニング事業を始め、1000円ヘアカット事業、クイックマッサージ事業などを「ファーストエイド24」と総称。これらの事業に特化した「ファーストエイド24ビル」を習志野市にオープンさせている

「商売は、何でもやってみるべきだと思ふんですよ」と、泉澤豊代表取締役社長。「うまくいくことなら何でも採り入れればいいし、ダメなら新しいことを考えればいい。サンクス本部の標準規格と外れていたとしても、商売として伸びればそれでいいんです」と強気の姿勢だ。倉庫街のサンクスは、その端的な例である。

もともと同社は、コンビニ加盟店の一つだった。しかし、「より地域に密着した店舗展開をしたい」「より消費者のニーズに合ったサービスを提供したい」という思いが、コンビニ本部の標準規格

倉庫街にたたくコンビニ。居住人口ゼロ地域という常識を越えた立地条件への出店だが、奇をてらったわけではない。足を使った商圏調査の結果、「勝算あり」と見込んでの決定だ。事実、同社でもトップクラスの営業成績を挙げている。周辺にライバル店も出店を始め、完全に同社が商圏を創造したかたちに



CVSベイエリア

昭和56年2月、コンビニ事業を目的とするシビルサービスを設立。平成元年にサンクスと加盟店契約を結び、平成9年には同社を東京9区・千葉10市における地域本部とするサンクス企業フランチャイズ契約を締結。4月末現在、東京都内および千葉県全域で直営104店舗を展開する。従業員数207名。



独自製造の総菜や弁当などを揃え、「食」に力を入れるのも、「街のおかあさん」としてのサービスの一端だ。また、この店舗はレジャー施設にほど近いため、レンズ付きフィルムを充実させるなど、各店舗が立地する地域特性や客層に合わせて、品揃えに工夫を凝らす

ニーズを的確にとらえる

品揃えに関しても同じことが当てはまる。「O.L.さんが多く来店するビジネス街にある店舗と、住宅街にある店舗と、倉庫街にある店舗が同じような品揃えでいいはずはないんです」と泉澤氏。メイン客層によって当然ニーズは異なってくる。

「女性がほとんど来店しない店舗にいくら女性誌を並べても、売れっこないでしょう? そんな本場に単純なことなどは収まりきらなかった。そこでサンクスとは企業フランチャイズという形の契約形態をとり、一加盟店以上の独自性を打ち出せるポジションを確保したのである。

例えば先述の倉庫街も、そもそも居住している人がいないので、人口としてはほとんどゼロ。本部のシステム化されたりサーチでは出店はあり得ないような立地だ。しかし足で稼いだ地域情報をもとに、同社が独自に判断して出店し、結果的には「そこで働く人」という新しいターゲットを掘り起こすことに成功した。

です。その反面、「仕入れをする都合上、ある程度の物量があった方が効率がいいのも事実です。だからすべてを独自の品揃えにすることはできないし、必ずしも得策ではない」と、冷静さも忘れていない。

独自性を強く打ち出し、経営実績も順調に伸ばしている同社だが、「独自のコンビニを立ち上げるつもりは今のところまったくありません」と泉澤氏は言う。「サンクスのブランド力は非常に強力です。これは商売の上でも有利に働く。それほど信頼性の高い看板をわざわざ降ろして、認知度の低い独自コンビニを立ち上げる必要はありませんよ。もちろん本部からの提唱も、合理性の高いものに関しては採り入れていきます」

「コンビニは基本的には本部優位の仕組み。本部と加盟店は平等とは言えず、共存共栄は難しい」と、既存システムに反旗を翻しながらも、ビジネス上よいと思つたものは積極的に採用する。そんな柔軟さがCVSベイエリアの躍進を支えている。

物販からサービスへ

同社では、クリーニング受付を中心に、ふとん丸洗いサービス、1000円ヘアカットなど、既存のコンビニではなかった独自のサービスを展開している。キーワードは「街のおかあさん」だ。

かつて母親は、炊事、洗濯、掃除など、家庭を支えるうえで非常に大きな役割を持っていた。しかし最近では社会情勢が変化し、母親も職に就いている

ことが珍しくない。かつてのような機能は果たせなくなりつつある。CVSベイエリアは、その肩代わりを目指しているのだ。

「コンビニは日常生活に非常に密着しています。我々としてもできれば毎日のようにご利用いただきたい。そのためには、より生活に密着したサービスを提供するのが自然です。それが「街のおかあさん」というコンセプトにつながりました」と泉澤氏。

炊事(食事)はもともとコンビニの得意分野。さらにクリーニングを付加したことで、洗濯の機能も持つた。しかし炊事、洗濯に関するアイテムもまだまだ細分化するアイデアを持つているようで、「今後は『掃除』を軸にしたサービスもあり得るかもしれませんよ」と泉澤氏は笑う。

同社がサービスに力を入れているのは、物販に限界を感じているからでもある。「コンビニはすでに飽和状態だし、日本の経済事情からも今以上の物販は見込めないと思います。だからこそサービスに力を注ぎたい。現状では売上の95%を物販に頼っていますが、将来的には物販80%、サービス20%にまで持っていきたいと思っています」



見た目は一般的なコンビニそのもの。大がかりに独自性を打ち出しているわけではない。この店舗にはクリーニング受付カウンターがあるが、他には若干の品揃えの工夫と、店内POPに工夫が見られる程度。その「ちょっとした違い」が、リピーターを生み出す効果を発揮している

Check Point

CVSベイエリアは、日本で唯一コンビニ本部と資本関係を結ぶことなく、エリアフランチャイズ本部として機能している企業だ。平成12年にはナスダック、平成14年には東証二部への上場も果たしている。「前例がないだけに軋轢も生じた」と泉澤氏。流通ビジネスで生き残るためのしたたかさ、そして「日常的に役立つサービスを」と生活密着型の店舗展開。このバランスが同社の成功を支えている。



日本のマーケットで人気を呼んでいるのが「パイロットスポーツ」。ワインディングロードでのスポーツ走行に向き、サーキット走行会にも対応するモデルだ。日本のユーザーのグリップ志向の高さがうかがえる

C
R
O
S
S
OVER
S
S
今月の

同業異種から見る
二輪ユーザー動向

Vol.3

タイヤメーカー

日本ミシュランタイヤ(株)

トータル性能重視の欧州ユーザー
スベック重視の日本ユーザー

当社の製品開発機能は、フランス本社に集約されています。もちろん日本のユーザーにもインタビューをし、フランスに対してリクエストをするということもありますが、開発に関しては完全にヨーロッパが主導となっていると言ってもよいと思います。

基本的に対象ユーザー数も違いすぎるので、単純に日本とヨーロッパのユーザー像を比較するのは難しいのですが、日本人はタイヤに対しての理想像を割とはつきり持っているようですね。ホームページや雑誌などによる情報の収集にも熱心で、特にスポーツ性能を求める傾向を強く感じます。

ヨーロッパのライダーも、もちろんスポーツ性能を求めないわけではありませんが、しかし全般的に、乗り心地や安定性、ウェット性能、ライフなど、トータル性能を気にする傾向にあります。

これは日欧の走行環境の違いも影響していると思います。ヨーロッパの道路は概して広く、スピードも高いうえに、移動距離も長い。そのためオールラウンドな性能が求められます。一方の日本はストップ&ゴーが激しく、コーナーのRもきついので、スポーツ性能を重視するのでしょうか。

グリップレベルに関しても、ヨーロッパのライダーは「これぐらいグリップすれば問題ない」という評価が多い。それに対して、日本のライダーからは「もう少しグリップが欲しい」という要望が寄せられる。

日本人独特のスベック主義も関係しているのかもしれない。競合する国産タイヤメーカーのグリップレベルの高さの影響も少なからずあるでしょう。

モータースポーツが根付く
土壌を育てていきたい

今、好んでバイクに乗っている方は、20代後半から30代以上の世代の方がほとんど。当社では、モトGPを始めとするモータースポーツのイメージを強く打ち出しているのですが、その世代の方たちにとってレースはまだインパクトをもたらず効果があるようです。

2スト250ccや4スト400ccの全盛期にバイクに触れてきた方たちですから、当時の記憶のまま乗り続けているんですね。だからバイクとモータースポーツが直結している。それがグリップ志向にも表れています。

しかし若い世代、中でもカスタムユーザーにとっては、モータースポーツの影響力は薄いようです。当社ではモータースポーツをタイヤ開発を進めるうえでの革新の場だと考えていますので、今後も切り離して考えることはありません。その分、若い世代のモータースポーツ離れには危機感を持っています。



現状では、モータースポーツをアピールしようにも、伝える相手がない。モータースポーツが根付く土壌作りは必須でしょう。

最近イベントやショップ単位の走行会なども増え、サーキットも身近になりました。バイクは安全な場でこそスポーツとして楽しめることを知ってもらう機会も、増えているのではないのでしょうか。また、今の親世代がそういう楽しみをすることが、次の子世代につながると期待しています。

ただ、ある程度の年齢になってからサーキット走行を楽しむ方の中には、タイヤや空気圧の知識の少ない方も見受けられます。当社も、年5回ほどサーキット走行会などでサポートを行い、少しでもスポーツ走行の楽しさと必要な知識を得てもらおうと考えています。



ライフ、ウェット、耐摩耗性など、タイヤに求められる性能をオールラウンドに高め、実用性を向上した「パイロットロード」。ツーリングユーザーを中心に好評を博している。

本格化するビッグスクーター専用タイヤ



GOLD STANDARD (FRONT)

GOLD STANDARD (REAR)

BOPPER (FRONT/REAR共用)

これまでのスクータータイヤのほとんどは、前後共用だった。しかしマジスティやT-MAXを始めとするビッグスクーターでは、車重があること、またエンジンのマウント位置が後方寄りになっていることなどから、リアタイヤへの負担が大きい。そこでミシュランでは前後それぞれに専用設計・開発したゴールドスタンダードをリリース。これも欧州主導の開発で、ビッグスクーターが世界的なものであることが分かる。



日本ミシュランタイヤ株式会社

二輪事業部 販売部
大場 広明氏

91年に入社し、販売企画や営業、物流などを担当し、01年より二輪事業部に。学生時代から歴代FZ400R、FZR400を所有。現在もFZR1000のオーナーだが、「年に1、2回ツーリングに行く程度。悲しいほど乗る機会がないんです」

道路に面する壁面の2箇所に「Y」ハログサインを掲げ、どの方向からもヤマハのシヨップだと分かるようにした。また、ウインドウ沿いの展示はバイクやクルマからの視線を意識した高さになっている。



大阪北時代から販売の中核を占めていたスクーターは、店内でなく入口のオープンスペースに並べて、気軽に来店しやすいよう配慮した



YSP大阪北は営業時間が終わるとシャッターを閉じていたが、全面ガラス張りのショールームを持つYSP寝屋川では、夜間もライトアップして周囲にアピールする

店舗、立地を変えて イメージ一新 ヤマハスポーツ専門店をめざす！

YSP寝屋川

大阪府寝屋川市高宮栄町16-1
並河 武 店長

20年間の歴史を持つ「YSP大阪北」から、移転を機に新規店としてスタートをきった「YSP寝屋川」。集客力に優れた立地と北大坂エリアでも際立つ新店舗を武器に旧来のイメージからの脱却と、新規顧客開拓でYSP寝屋川スタイルの確立をめざす。

Profile

略歴 約20年前にスタートしたYSP大阪北は、二輪車はもちろん、ATVからマリッジットまでのオールヤマハの商材を取り揃えた大型店として営業。その後、地域性を考慮して、スクーターや中古車の販売にも力を注ぎ、地域に根ざした独自のスタイルを確立した。しかしこの場所の立ち退きを機に移転を決断。この2月に新しくYSP寝屋川として生まれ変わった。

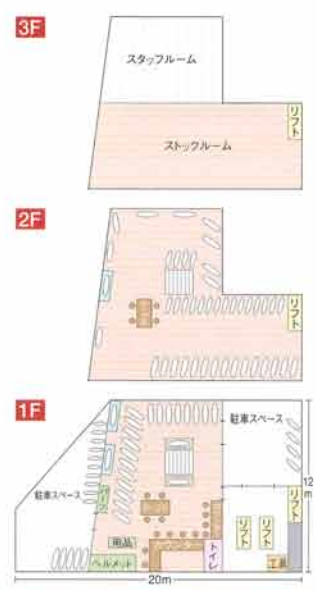
立地 大阪市方面へ向かう開通したばかりの県道18号線と、市内でも有数の生活幹線道路である八尾枚方線(県道21号)の交差点にあり、周辺にはホームセンターやスーパーマーケットからなるショッピングセンターや、ユニクロなど市民の生活行動の拠点となる店舗が軒を並べ、相乗的な集客力に優れる。

店舗 以前タイヤショップだった建物に大きく手を加えて床面積を拡大。展示スペースを広くするため3階建てにした店舗は、1階が新車のショールームとサービス工場(65坪)、2階は海外

向けモデルと中古車(65坪) コーナー、3階がスタッフルームと倉庫(65坪)になっている。

商圏・客層 店舗を中心に10kmを商圏と想定していたが、道路整備やショッピングセンターのおかげで、遠方から来店されるお客さまが増えており、予想以上の広がりを見せている。それに伴って、客層(2~3割が女性、中高年のスクーター需要が中心)も若年層から中高年層まで幅広くなり、スクーターから大型スポーツバイクまでコンスタントに求められるようになった。

スタッフ 右から並河武店長、店長の奥さんでアシスタントを勤める並河美恵子さん、メカニック・セールスアドバイザーの脇田和之さん、チーフメカニックの萩原誠さん、メカニックの岩崎勇太さん。経験豊富な店長と、若くて元気なスタッフで、お客さまを温かく迎える。



交差点の角地ということで、どちらの道路から来て入りやすいようにエントランスを2箇所設け、どちらから入っても店内全体が見渡せるレイアウトを心掛けている(写真は2箇所の入口から)



店舗のなかで最も気を使ったという階段の配置は、2階への動線を作るためカウンターの正面に置かず、少し遠ざけた位置で気兼ねなく上りやすいよう気を配った。また、階段の両サイドにネオンラインをつけたり、カラーを赤にして壁や天井の色と差別化して存在を主張することも忘れていない



バイクに乗るために必要なものはそろえているが、特にヘルメットを豊富にそろえたのは、その重要性を認識してもらいたいという思いが込められている



昨年から盛り上がりはじめたマジスティカスタムに対応し、少しずつパーツを増やしている最中だ



サービスを見せることも専門店としての義務という意識で、大阪北時代では見れなかったサービス工場内の作業を見学できるようにカウンター席を設置した

新規店の発足を最大のチャンスに！ 新規顧客獲得と専門店のイメージの回復

YSP寝屋川の前身であるYSP大阪北がオープンしたのはおよそ20年前。20坪の敷地の中に建つ140坪の店舗は、1階を200台の車両展示スペースとし、2階に大きな部品・用品コーナーを持つ大型店だった。取扱商品は二輪以外にもマリッジエットやATVまであり、バイクショップという枠を超えたオールヤマハの商材をそろえ、YSP大阪北に行けば、ヤマハのものならなんでも手に入るし、専門店なので購入後も安心して任せられるというお客さまから絶大な信頼を獲得。折からの二輪車ブームにも乗って、地域に深く根を下ろした。

しかし10年後、バイクブームの衰えとともに、スポーツ車の売り上げが下降をはじめると、地域のニーズを反映して販売の軸をスクーターと中古車にシフトし、しだいにその比重を高めていった。

「最近でいうとTWのブームなどで、スポーツ車が突発的に売れることはあったのですが、やはり中心はスクーターと中古車。そうした品そろえや、店舗の老朽化も重なって、ヤマハ専門店本来のスポーツイメージがどんどん希薄になっていったんです。そんな時、大型用品店や中古車量販店の出店が相次ぎ、それらと競争するなかで、自分たちの強みはヤマハブランドであり、その技術を売りにするプロショップであることを改めて認識させられました」

自らの強みを取り戻し、もう一度ヤマハ専門店として再スタートしたいと考えた並河店長は、立退きを機にYSP大阪北の移転を決意。候補地と店舗の新しいコンセプトを綿密に練り上げた。

「まず立地は、地域のお客さんと今までどおりお付き合いができ、遠方からも人が集まって新規顧客の獲得にも有利な場所を徹底的に探しました。そして今後さらに厳しくなる二輪市場で勝ち抜くため、今までのように中古車ではなく、新車のスポーツバイクを中心とした商品構成のヤマハ専門店を確立、周辺ショップとの差別化をはかろうと思ったんです」

新しく確保した場所は、YSP大阪北から約700m、アクセスと視認性が抜群な国道18号線と、八尾枚方線との交差点。周辺に大型複合ショッピングセンターやユニクロがあるため、寝屋川市の広い範囲からあらゆる年齢の人が訪れる新スポットであり、今後の顧客獲得の可能性を大きく広げている。

2F ショールーム

海外向けモデルはゆったりしたスペースを確保し、1台の重みを大切に
したディスプレイで高級感を見事に演出。1階と同様に、テレビとテー
ブルを置いてモデルをじっくりと見ていただけるよう配慮も欠かせない



天井の蛍光灯や水銀灯以外に、ショールームのウィンドウ沿いに、2個1組のスポットを巡らせ、明るさを作り出している。また床は、人の歩くところを温かみを重視したウッド素材。一方コンクリート素材はキズや汚れに強いので、バイクの展示部分に使用している



中古車は価格重視ではなく、より新車に近い品質のものを
買い付けている。整備も行き届き「YSP優良中古車」として
認定したものばかりだ

サービス工場



例えば女性や、バイクに詳しくない人に対して、修理内容を説明
するときに専門用語をできるだけ使わないなど、お客さま
一人ひとりに合った対応を行なう



「私たちがサービスで心掛けていることは、修理箇所以外にも悪いところがないかすべてを点検すること。そして預かったときよりもきれいにしてお客さまにお返しすることを心掛けています」



有効な商材の選択と配置が決めて！ 正統派ヤマハプロショップをアピール

移転先は、理想どおりの場所を確保することができた。次の課題となるのが店舗と商品でいかに専門性をアピールするか。店舗は十分な広さを確保するため3階建てとし、1・2階を展示スペースにしているが、なかでも1階は専門店のイメージを最もよく反映した場所だと言える。

「ヤマハ専門店」であることを伝えるため、大阪府内でも一番キレイで堂々とした外観をめざしました。特にスポーツバイクのイメージを強調したかったので、店内へ入ったら一面新車になるように、1階は国内モデルのスポーツバイクとビッグスクーターのフルラインナップを展示。ウィンドウにはラッグシッパである大型スポーツバイクをディスプレイしました」

また、18号線の沿いのウィンドウに設けたホットコーナーには、周期的にニューモデルやカスタムモデルなど、店のイチオシモデルを展示。信号待ちで止まった車やバイクに、新鮮さや技術力をアピールする。また、以前から販売の中核だったスクーターは、車種にこだわらぬ男性と、気軽に立ち寄りやすい女性に配慮し、入口のオープンスペースにフルラインナップを並べた。

店舗2階は海外向けモデルと中古車の展示スペース。これも狙いがあってのことだ。

「お客さんにとってバイクショップの2階は上りにくいものですよね。そこで、ビックリ箱みたいな期待感やワクワク感を演出するため、ハイスベックな海外向けモデルと、質の高い中古車を置くことにしました。また1階から2階の様子を覗けるようにし、お客さんの好奇心を刺激する工夫もしています」

海外向けモデルは、高級感を大切にするため、1台に対するスペースを大きくとり、ウィンドウ沿いに配置してじっくり見せるよう心掛けた。また台数を絞った中古車は、取立てぎしり並べることでボリュームを強調。新車と比較することで、新車購入を誘う動機付けの役割も担っている。

このように商品の配置や展示に意味を持たせ、それぞれが最善の環境を作り出す。それが商品を大事に扱っているという証しであり、専門店として大切なことだと並河店長は話す。

開店後のアンケートでは、大阪北のお客さんが3割、大坂北を知っていた人が3割、新規が3割という狙いどおりの結果となった。販売も幅広く、特に大型車は顕著な伸びを示し、国内モデルだけでなく、今まで右肩下がりがだった海外向けモデルも含めて好調だ。こうしてYSP寝屋川は、この大きな転機をプラスに結びつける努力で、正統派ヤマハ専門店として再スタートを切った。

YAMAHA Monthly Calendar

2003年

6月 ▶▶▶ 7月

- セールスプロモーション
- 普及イベント
- 新商品

- イベント・キャンペーン
- モータースポーツ

☆=数字で示したページに関連情報があります。

6 【ヤマハ関連】

- 5/1~7/31 ヤマハストリーターリミックスフェア
- 6/1~8/31 スポーツ5.9%低金利キャンペーン
スクーター&バス3%低金利キャンペーン
スクーター&バス冬のボーナス一括払いキャンペーン
- 6/1 TT-レンタルレース/SUGO
- 6/7 SUGO親子バイク教室/SUGO
- 6/8 MINE親子バイク教室/MINE
- 6/8 SRシーサイドカフェ/神戸
ヤマハニューモデル展示試乗会/福岡
YSPニューモデル試乗会/富山
- 6/14 キッズステップアップ教室/SUGO
SUGOレーシングコース走行会/SUGO
- 6/15 ファンキーエンデューロ/ブラザ坂下
サンシャインいわきエンデューロ/MSLしどき
員弁シリーズカップエンデューロ/YSLダイイチ
エンデューロ宮城シリーズ/SUGO
- 6/15 リターンライダーズスクール/テクニカルセンター
ヤマハニューモデル展示試乗会/宮城(SUGO)
YSPニューモデル試乗会/福井
- 6/16 ステップアップスクール/SUGO
- 6/21 ヤマハオフロード体験試乗会/ブラザ坂下
- 6/22 SRシーサイドカフェ/横浜
- 6/22 ファーストステップサーキットラン/十勝ISW
ヤマハオフロードスクール/ブラザ坂下
Club YAMAHA ワイワイ エンデューロ/栗丘RP
- 6/28 ヤマハオフロード体験試乗会/MX408
- 6/28 ヤマハTRYカートスクール/SUGO
- 6/28~11/22 第4回チャレンジ展「YZR500 30年の進化」/ヤマハCP
- 6/29 SUGOキッズミニバイクレース/SUGO
サーキットスクール/SUGO
ヤマハオフロードスクール/MX408
ALPS CUP/MSL塩尻
- 6/30 NewPAS デラックス 発売



7 【ヤマハ関連】

- 7/1~9/30 Gロックスクーター盗難保険キャンペーン
- 7/5 オールラウンドオフロードスクール/SUGO
- 7/12 ヤマハオフロード体験試乗会/YSLダイイチ
- 7/12 SUGO親子バイク教室/SUGO
- 7/13 チャレンジオフロードフロンティア東北/SUGO
ヤマハオフロードスクール/YSLダイイチ
TI Kids Bike/TI英田
- 7/14・15 ヤマハレーシングトレーニングfor8耐/鈴鹿
- 7/18 SUGOレーシングスクール/SUGO
- 7/19 サーキットスクール/SUGO
- 7/21 SUGOレーシングコース走行会/SUGO
- 7/21・22 キッズステップアップ教室合宿/SUGO
- 7/26 ヤマハTRYカートスクール/SUGO
- 7/27 リターンライダーズスクール/テクニカルセンター
- 7/27 十勝ISW子供バイク教室/十勝ISW
アップグレードオフロードプラクティス/成田MXパーク
Kidsオフロードスクール/成田MXパーク
- 7/29 ファーストステップサーキットラン/TI英田

6 【社会・業界】

- 6/1 NMCA少年少女モーターサイクルスポーツスクール/茨城
- 6/8 NMCA少年少女モーターサイクルスポーツスクール/兵庫
- 6/8 Moto GP第5戦/イタリア
全日本モトクロス第4戦/東北・SUGO
- 6/15 Moto GP第6戦/カタルニア
- 6/15 NMCA少年少女モーターサイクルスポーツスクール/秋田
- 6/28 Moto GP第7戦/オランダ
- 7/8 NMCA少年少女モーターサイクルスポーツスクール/京都
- 7/6 全日本モトクロス第5戦/北海道
- 7/13 NMCA少年少女モーターサイクルスポーツスクール/石川
- 7/13 Moto GP第8戦/イギリス
- 7/20 NMCA少年少女モーターサイクルスポーツスクール/高知
- 7/20 Moto GP第9戦/ドイツ
全日本モトクロス第6戦/東北
全日本ロードレース第5戦/もてぎ
- 7/21 NMCA少年少女モーターサイクルスポーツスクール/奈良
- 7/27 NMCA少年少女モーターサイクルスポーツスクール/新潟
- 7/31~8/3 鈴鹿8時間耐久ロードレース/鈴鹿



※上記のスケジュールは予定です。
各イベントなどの日程、会場は変更となる
場合があります。



ヤマハ発動機販売 Internet Web Site <http://www.yamaha-motor.jp/>

ヤマハ発動機 Internet Web Site <http://www.yamaha-motor.co.jp/>

Y-MODE Site (携帯電話専用) <http://www.yamaha-motor.co.jp/y-mode/>

この印刷物に掲載する記事等を無断転載・無断使用する事はお断りいたします。